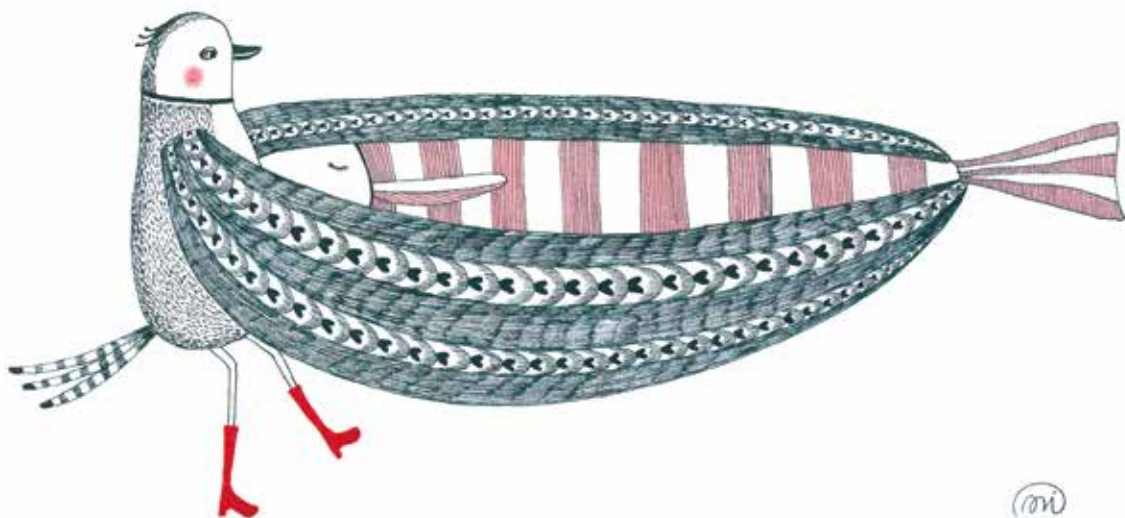


# とびの北のら

vol.118  
令和元年7月



HOKKAIDO  
ARTS FOUNDATION



(m)

## 特集

子どもも大人も楽しめる、  
ポップで深い新しい演劇

『めに見えないみみにしたい』  
作・演出 藤田貴大

この人に注目

木村直樹

アートの子カラを考える  
なよろ舞台芸術劇場

街歩きアート

十勝千年の森

「清水町」

エッセイ

神田山陽

表紙作家の紹介  
あべみち子



# 子どもも大人も楽しめる、 ポップで深い新しい演劇 『めにみえない みみにしたい』

作・演出 藤田貴大



## 北海道公演

8/3 (土) 富良野市  
8/5 (月) 士別市  
8/8 (木) 伊達市  
8/10 (土)・11 (日) 札幌市



宣伝美術:名久井直子  
宣伝イラスト:ヒグチユウコ  
宣伝写真:井上佐由紀

次代を担う演劇作家として注目を集める藤田貴大さん。『めにみえない みみにしたい』は藤田さんが初めて取り組んだ、子どもから大人まで楽しめる演劇作品です。2018年に彩の国さいたま芸術劇場での初演が高い評価を得たことから、2019年、全国14都市での再演が実現しました。北海道では、藤田さんの故郷である伊達市を含め4市で上演されます。しりとりやしゃぼん玉などが登場するポップで楽しい作品ですが、奥深いテーマをしっかりと内包している作品でもあります。本作に込めた思いなどについて、藤田さんに伺いました。

—子どもから大人まで楽しめる作品ということですが、創作にあたって何を一番意識しましたか？

子どもにみせるからといって侮らないことです。大人と子どもの違いは、ボキャブラリーが豊富かどうかだけ。大人と同じように子どもたちも考えています。だから言葉は選びましたが、作り方は普段と変わりませんでした。

—言葉を選ぶというのは、シンプルになっていくということ？

シンプルになっていったし、いつもよりも直接的な部分も増えました。説明が少なくなる分、大人には理解し難いところもあるかもしれませんが、でも子どもたちは物語が飛躍しても想像力で行間を補ってくれます。そういう意味ではいつも以上に自由にフィクションが書けました。

—藤田さんらしい、クセになるリズムカルな言葉遊びも、子どもは感覚的に受け取ってくれると？







撮影：井上佐由紀

藤田 貴大 (ふじた・たかひろ)

1985年生まれ。マームとジブシー主宰、劇作家、演出家。2007年にマームとジブシーを旗揚げ。象徴するシーンのリフレインを別の角度から見せる映画的手法が特徴。2011年に三連作『かえりの合図、まってる食卓、そこ、きっと、しおふる世界。』で第56回岸田國土戯曲賞を26歳で受賞。『cocoon』(今日マチ子原作)の再演(2015)で第23回読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞。2018年11月『書を捨てよ町へ出よう』(寺山修司作)で「フェスティバル・ドートンヌ・ア・パリ」に招聘され、パリにて上演。今もっとも注目を集める若手演劇人のひとり。

舞台を見て何を感じるか、子どもの感受性は大人以上にあるとおもいます。今回の物語と同じように、森の奥へいざなうように、わかりやすさだけではない、観ている人たちの感情を揺さぶることができるか、それを意識していました。

— クラムボンの原田郁子さんの音楽や、suzuki takayukiの衣装も寄り添っていました。

ことだけが本当なわけでもない。そういう曖昧さが世の中にはいっぱいあって、そのことに傷ついたりすること、もっと言えば、「生きることはこんなにも苦しいのだからして人は人を産むのだからか」ということをこの作品ではかかえていなのだとおもいます。この作品は「演劇」や「大人と子ども」への問題意識がシンクロし、詰まっています。全国の方がこの作品をどんな風に観てくれるのか、とても楽しみです。

※(公財)福岡市文化芸術振興財団 広報誌「wa」81号より記事を一部抜粋・編集して掲載しています



言葉を繰り返して印象付ける手法は僕の作品の特徴のひとつですが、子どもにとっては別に驚くことでもない。台詞も子どもたちが普段聞いている音楽も同じように受け止めているようにおもいます。

— 今回は舞台と客席がフラットになっていて、演者との距離感も大きなポイントですね。

— 言葉や動きで飽きさせずに楽しませる要素と、一方で少女の成長や戦争などといった奥深いテーマ、その両方があるのが印象的でした。

# め に み え ない

# み み に し た い

舞台写真：宮川舞子

めにみえない生き物を探しに、おんなのこは森の中へー。  
『めにみえない みみにしたい』

作・演出：藤田貴大  
音楽：原田郁子 衣装：suzuki takayuki  
出演：伊野香織、川崎ゆり子、成田亜佑美、長谷川洋子

●富良野公演  
日時：2019年8月3日(土) 15:00開演  
会場：富良野演劇工場(舞台上)  
料金：一般1,500円、会員1,000円、高校生以下500円  
問い合わせ：富良野演劇工場  
☎0167-39-0333 (9:00~17:00)  
主催：NPO法人ふらの演劇工房  
共催：公益財団法人北海道文化財団

●士別公演  
日時：2019年8月5日(月) 18:00開演  
会場：あさひサンライズホール こだまホール(舞台上)  
料金：おとな(16歳以上)1,500円、子ども(2歳以上)500円  
問い合わせ：あさひサンライズホール  
☎0165-28-3146 (平日9:00~17:00)  
主催：ARCHあさひ  
共催：公益財団法人北海道文化財団

●伊達公演  
日時：2019年8月8日(木) 11:30開演/15:00開演  
会場：だて歴史の社カルチャーセンター 大ホール(舞台上)  
料金：おとな2,000円、子ども(2歳~高校生以下)1,000円  
問い合わせ：NPO法人伊達メセナ協会  
☎0142-22-1515 (9:00~22:00)

主催：NPO法人伊達メセナ協会  
共催：公益財団法人北海道文化財団

●札幌公演  
日時：2019年8月10日(土) 11:30開演/15:00開演  
11日(日) 11:30開演  
会場：クリエイティブスタジオ(札幌市民交流プラザ3階)  
料金：おとな(19歳以上)2,000円 子ども(2歳以上)1,000円  
問い合わせ：公益財団法人北海道文化財団  
☎011-272-0501 (平日9:00~17:30)  
札幌市民交流プラザ劇場事業課  
☎011-271-1950 (平日9:00~17:00 休館日を除く)  
主催：公益財団法人北海道文化財団  
札幌文化芸術劇場 hitaru(札幌市芸術文化財団)

※公演前日に小学生対象の「地図のワークショップ」を各地で開催。  
企画制作：公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 合同会社マームとジブシー  
助成：一般社団法人全国モーターボート競走施行者協議会  
一般財団法人地域創造 公共ホール演劇ネットワーク事業  
文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)|  
独立行政法人日本芸術文化振興会  
後援：北海道

公共ホール演劇ネットワーク事業は、地方自治体が開催するモーターボート競走の収益金を活用して実施しています。



なよろ舞台芸術劇場

この人に注目!

ガラス工芸作家

木村 直樹

Naoki Kimura



ガラス工芸の街・小樽市で、作家活動や地域ブランドとしての小樽ガラスを創造する試みで注目を集めているのが、ガラス工芸作家の木村直樹さんです。

木村さんは1984年生まれ。「カッコイイ職業を探して」小樽市のガラス工房に就職し、厳しい親方の元で宙吹きガラス技法の修業を積みました。2011年に独立して株式会社KIM GLASS DESIGNを設立。食器から芸術作品としてのオブジェまで多種多様なガラス創作を行っています。美術展への出品なども積極的に行い、2016年には第55回日本現代工芸美術展で現代工芸賞を受賞しています。

「欧米では大きくインパクトのあるガラスアートが盛ん。引き換え、日本はガラス工芸は盛んだけど、アートとしてのガラスが弱い」。そう感じつつアメリカのビルチャックガラススクールを受講した木村さんは、豊かな食文化と繋がった繊細なガラス工芸品こそ日本のアイデンティティであることに気がきました。そして、ものづくりの正確さや早さ、技術力においては自分は確かなも



のを身に付けている、という自信を得たのです。

以降、「世界を目指すなら足元から」と、実行委員長として小樽がらす市の活性化や、小樽硝子作家会による作品展を行うなど、地域での活動に注力するように。2017年には、LEXUS NEW TAKUMI PROJECTの「匠」の1名に選出され、かつて小樽市民に愛用された「小樽焼」の特徴を持つガラス工芸『新・小樽焼』を提案しています。一方で、小樽ガラスを牽引する存在となることを目指し、自社工房の製品の海外展開を図っています。

「職人と作家に区別はない。商品づくりは作品に、作品づくりは商品にいい効果をもたらす」。目の前のことに専心し、怖れずトライアルを繰り返し、木村さんの活動は「100年を越えて受け継がれる小樽ガラスとガラスのまちの創造」を目指して続きます。

株式会社KIM GLASS DESIGN  
住所：小樽市祝津3丁目8番地 ☎0134-61-1213  
<https://www.kimglassdesign.net>

◎北海道文化財団アートスペース企画展 vol.40  
木村直樹 ガラス作品展「AO」  
会 期：2019年7月18日(木)～8月16日(金) 9:00～17:00  
休館日：土・日・祝日 ※都合により臨時休館する場合があります。  
会 場：北海道文化財団アートスペース  
(札幌市中央区大通西5丁目11 大五ビル3F)  
入場料：無料

a r t

市民劇づくりを受け継ぎ、新たな絆をつくる。

「名寄にもっと舞台芸術文化を広めよう。鑑賞の機会を増やし、活動・発表の場をつくろう」。このような狙いから、2009年に誕生した組織がなよろ舞台芸術劇場実行委員会(以下、舞台芸術劇場)です。名寄市教育委員会が立ち上げ、舞台芸術を愛する名寄市民が参加する形で組織されました。

舞台芸術劇場は、主に2015年に誕生した647席を有する名寄市民文化センターの大ホール(愛称・ENIRAYホール)に招聘する音楽、演劇、ダンスなどの公演を企画しています。

「クラシック音楽、落語などの古典芸能、ミュージカル、ポップス、演劇など、多くの方々に楽しんでもらえるよう、特定ジャンルに偏らない企画を心がけています」と、舞台芸術劇場の実行委員長である橋本慎吾さんは言います。

また、市外から講師を招いて演劇やダンスなどのワークショップを実施し、市民が体験する機会もつくってきました。

さらに、今年には舞台芸術劇場としては初めて、市民劇の制作を行います。

実は、名寄市にはかつて市民劇の創作を主体的に行う名寄市民劇場実行委員会(以下、市民劇場)という組織がありました。2000年に名寄市開拓100年記念事



2017年11月に上演された市民劇「朔北の画家バリの死す」のシーン。  
名寄市生まれの版画家・木原康行さんと家族の物語を、松岡義和さんが戯曲化。名寄市民劇場実行委員会主催。

業として市民参加野外劇『ピヤシリ賛歌』を制作・上演。これをきっかけに、脚本を担当した松岡義和さん(当時は市立名寄短期大学学長)を中心として、市民による演劇創作活動の気運が盛り上がったことから誕生した組織です。市民劇場は12回の公演を行いました。松岡さんが80歳を迎えた2017年をもって解散しました。

「名寄での市民劇づくりを継続させたい」。そう考えた舞台芸術劇場では、新たなスタイルの演劇づくりを企画しました。札幌から劇作家・演出家の弦巻啓太さん(弦巻楽団)を招き、市民キャストとのワークショップや対話を重ねて名寄の歴史を題材とした脚本を書いてもらい、制作・上演する試みです。

「小学生から年配の方まで参加できる市民劇は、日頃は接点のない世代・職種の人たちが集うきっかけになります。演劇づくりを発展的に継承しつつ、コミュニティの絆を深めることができれば」と橋本さん。名寄での新しい舞台芸術づくりが始まっています。

名寄歴史市民劇(タイトル未定)  
日時：12月15日(日)  
会場：名寄市民文化センター ENIRAYホール  
(名寄市西13条南4丁目2番地)  
問い合わせ：ENIRAYホールチケットセンター  
01654-33333



pick up!  
清水町

### 十勝清水やきもの市

地元陶芸家が、町内で採取される美蔓(びまん)粘土の焼物を広めようと1994年に開催したのが始まり。美蔓粘土は、かつて外壁材としてタイ



ルなどに加工されていました。現在は、道内一早い陶芸市として毎年5月下旬に開催。20以上の窯元が出品し、賑わいます。

清水町観光協会 ☎0156-62-1156

### 町民第九の発祥のまち

1980年、町民合唱団が札幌で行った演奏会が話題となり、全国に第九ブームを巻き起こしました。町では子どもにもドイツ語で合唱を教えるなど、継承に取り組んでいます。最近では2018年に農民管弦楽団と共演したほか、2020年には町民主体の演奏会の開催を予定しています。清水町教育委員会社会教育課

☎0156-62-5115



### サワラビテラス

日高山脈のふもとの小高い丘にたたずむカフェ。眼下には十勝平野のパノラマが広がります。オーナーがセレクトした絵画などの作品が展示されたギャラリー風の空間で、十勝の食材を使った料理とともに、刻々と移り変わる風景に自然のアートを堪能できます。

上川郡清水町羽帯南5-122

☎080-4049-4001(営業時のみ)

営業日:金・土・日(HPで要確認)

営業時間:11:00~17:00

https://sawarabiterrace.jimdo.com



上/板東優の作品。麦飯石で作られた《カムイのサークル》は、十勝と日高のシカの戦いをカムイが仲裁したというアイヌの神話に基づいている。真ん中がカムイの石

左/《ヴィーナスのかげら》は、青いコマドリのお卵がモチーフ

左下/2018年に加わったブロンズ像《プロファイル・オブ・ピース》は無抵抗な人をかたち取り、平和を表現している

右下/ディディエ・クールボ《七つのダイヤモンド》は、ダイヤモンドがこの場所のどこかに置かれたというメッセージにより、単なる風景が不思議な景観に変貌する



●上川郡清水町羽帯南10線

☎0156-63-3000

営業期間:4月27日~10月20日

営業時間:4/27~6/30 9:30~17:00、7/1~8/31 9:00~17:00、9/1~10/20 9:30~16:00

入場料:大人1000円、小中学生500円

http://www.tmf.jp

日高山脈のふもとに広がる酪農と農業のまち・清水町は、深い森を開拓し発展してきました。この地の豊かな自然と人との共生をテーマに作られたのが「十勝千年の森」。未来へ遺す宝物として、自然景観を生かした「世界一美しい庭」が造成され、アートもその一部として展示されています。また、町民に根付いたベートーヴェンの「第九」の合唱など、次世代へと伝えていく文化の継承活動が行われています。



## 【清水町】

## 十勝千年の森

### 森と共生するアート

日高山脈のふもとの御影(みかげ)地区に広がる「十勝千年の森」は、十勝毎日新聞社によって作られました。新聞紙の原料となる木材の伐採が環境に及ぼす影響を考え、約400ヘクタールという広大な土地で森の再生と保全に着手。その一部を公開しています。そこには、自然景観を生かした4つの庭園(アースガーデン、メドウガーデン、ファームガーデン、フォレストガーデン)から成る「北海道ガーデン」と、体験チーズ工房やカフェなどを備えた観光施設があり、訪れた人たちは、自然との共生を肌で感じ取ることができます。

園内には現代アート作品が点在する「アートライン」があり、国内外の7名のアーティストが滞在して制作した作品が、風景に溶け込んでいます。帯広市出身で音更町在住の彫刻家・板東優(まさる)さんは、十勝に伝わるアイヌの神話からインスピレーションを得た作品を、この土地の地盤となっている麦飯石(ばくはんせき)で制作。ドイツ出身のインゴ・ギュンターさんは、この地に残されていた開拓酪農家の古いサイロに馬の骨の作品を展示。フラ

ンス出身のディディエ・クールボさんは、景色をダイヤモンドに例え、風景の見方を変えるメッセージを石碑に刻みました。どの作品も、現在見えている風景のなかに、人と自然の歴史や記憶を浮かび上げさせる役割を果たしています。

庭園はガーデン・デザインとしての評価も高く、特に、背後の日高山脈と調和したアースガーデンと十勝の草花を主体としたメドウガーデンは、2012年にイギリスのガーデンデザイナーズ協会の権威ある賞で大賞と国際賞を受賞。「世界一美しい庭」として認められ、近年はドラマやミュージックビデオなどのロケ地にもなっています。

2016年に十勝地方を襲った台風による集中豪雨では、近隣の川が氾濫して大きな被害を受けましたが、十勝千年の森は、美しい景観を保ったまま現在に至っています。夏から秋にかけては、最も多くの花々が咲き誇る素晴らしい季節。アートの目線で庭園を巡れば、また別の風景が見えてくるはずです。

S H I M I Z U



「昨日はどこで何してた」って聞くからさあ、「昼の上で飲んでたよ」と答えた。「明日からどうする」重ねてくるから、「そりゃあ旅から旅だ」と云ったんだ。そしたら怪訝な顔された。ボギーを気取って、すかせば良かったか。

コチラは職務質問みたいなオタズネに真摯に対応してるのに。旅だと聞くと遊興だとアチラは勝手に思うんだ。車で観光地巡って、天ぶらやサシミや茶碗蒸しをお膳に並べて喜ぶような殿様遊山に、コチラの旅は程遠い。只歩いて歩いて歩いて、後は梅干しの種をしゃぶってワンカップだ。山頭火よりまだ酷い。井月並みに懐寂カツカツたり。しがねえ旅なんだ。

でも侘しくたっていいんです。旅の空なら其れ丈でひたすら結構。若い頃は、仕事を求めて何処へでも。中期は「身から出たサビ」に追われて何処までも。ジジイがかった昨今は、西行の歌を繰りごちながら。

表紙作家の紹介



いつもの曲で

あべみち子 イラストレーター、絵本作家  
Michiko Abe

北海道根室市生まれ。中学校の美術科教諭として21年間勤務した後、現在はフリーのイラストレーターとして活動。個展、グループ展において作品を発表。

- [個展]
- 2018年 ギャラリー創 (札幌)
  - 2018年 紀伊國屋書店札幌本店 (札幌)
  - 2015年 ギャラリーレタラ (札幌)
  - 2005年 大丸セントラルスカイホール (札幌)
  - 2002年 大丸セントラルスカイホール (札幌)
  - 2000年 さいとうギャラリー (札幌)
  - 1998年 大丸セントラルスカイホール (札幌)
  - 1984年 HBC三条ビルギャラリー (札幌)

- [グループ展]
- 2018年 BIRDS展 (ASAGI ARTS/東京)
  - 札幌のアーティスト50人展 (ギャラリーレタラ/札幌)
  - ゆく年くる年 '18-'19展 (さいとうギャラリー/札幌)

- [著書]
- 2018年 絵本「きょうのおやつは」(中西出版) 出版
  - 2007年 絵本「たいせつなきもち」(響文社) 出版

- [作品掲載誌]
- 2019年 ART BOOK OF SELECTED ILLUSTRATION 「Animal 2019」(東方出版)

- [TV広告作品]
- 2019年 北海道米テレビCM「ああ食べらさる」シリーズにおいてイラスト部分を担当

◎北海道文化財団アートスペース企画展 vol.41  
あべみち子 個展「風のいい日に」  
会期：2019年8月28日(水)～11月8日(金) 9:00～17:00  
休館日：土・日・祝日 ※都合により臨時休館する場合があります。  
会場：北海道文化財団アートスペース (札幌市中央区大通西5丁目11 大五ビル3F)  
入場料：無料



はじまりの午後2



午前3時のお赤飯



神田山陽 (かんださんよう) 講師

北海道生まれ。自称いかものぐい。物々交換講談を模索中。Eテレ「にほんごであそぼ」等出演中

※次号のエッセイも神田山陽さんが担当します

世の中を思へばなべて散る花のわが身をさてもいづちかもせん  
芸人が旅するのは常套手段。放浪こそが身骨を磨くというのが至極当然だと思っただけ。旅とは——借景乍ら——西行の散る桜の中への五体投地なだけ。  
イタリアにも行ったっけ。マジナイのように聞かされた「まんじやーれかんとーれあもーれ」(食べて唄って恋をして)。この唄の処を旅にして。オレは唄うように旅しようって思ったもんだった。  
「そんな事で喰えてるの」と、益々眉をひそめられるけど、それには答えのないようにしてるよ。ひとは、ホントは本当のことを聞きたがらないものだからね。

北のアーティスト  
育成事業

●「HAFアンサンブル」クラシック・コンサート

日 時：2019年9月20日（金）  
18:00予約券引換  
18:30開場 19:00開演  
会 場：札幌コンサートホール  
Kitara小ホール  
入場料：予約1,000円 当日1,500円  
問い合わせ：北海道文化財団 ☎011-272-0501

声楽&ピアノ



声楽・ソプラノ  
佐々木アンリ



ピアノ  
石田敏明

フルート&ピアノ



フルート  
南加奈子



ピアノ  
野口咲妃

フルートカルテット



フルート  
按田佳央理



ヴァイオリン  
林ひかる



ヴィオラ  
今井佑佳



チェロ  
山田慶一

アートシアター  
鑑賞事業

●新田親子20周年記念コンサート

石狩公演  
日 時：2019年8月25日（日） 13:00開場 13:30開演  
会 場：石狩市花川北コミュニティーセンター  
入場料：1,500円  
問い合わせ：NPO法人石狩市文化協会 ☎0133-75-1288

標津公演  
日 時：2019年9月8日（日） 13:30開場 14:00開演  
会 場：標津町生涯学習センター  
入場料：1,500円  
問い合わせ：標津町文化協会 ☎0153-82-2900

●上方落語の会～すべて見せますお囃子の世界～

日 時：2019年9月24日（火） 18:30開場 19:00開演  
会 場：増毛町文化センター  
入場料：2,000円  
問い合わせ：ましけ町民スクール運営委員会  
☎0164-53-2427

●「虹のかげら～もうひとりのジュディ」

日 時：2019年10月30日（水） 18:30開場 19:00開演  
入場料：3,000円  
会 場：音更町文化センター  
問い合わせ：NPO法人音更町文化事業協会  
☎0155-31-5215

財団事業  
インフォメーション  
(2019年8月～10月)

まちの文化  
創造事業

●江別市民ミュージカル公演20周年記念  
『レnga通りの向こうから』

日 時：2019年8月24日（土） 昼公演14:00開演  
夜公演18:00開演  
8月25日（日） 昼公演14:00開演  
会 場：江別市民文化ホール（えぼあホール）  
入場料：前売 大人1,500円 子ども500円  
当日 大人1,800円 子ども800円  
問い合わせ：江別市民ミュージカル実行委員会  
（江別市教育委員会生涯学習課内：橋本）  
☎011-381-1060

●鼓動する日本画 CONNECT - MOVE (札幌)

会 期：2019年9月7日（土）～16日（月・祝）  
会 場：プラニスホール  
入場料：500円  
問い合わせ：鼓動する日本画展実行委員会（朝地）  
☎011-531-3510

●夢公演 2019

日 時：2019年9月14日（土） 14:00開演  
会 場：深川市文化交流ホールみ・らい  
入場料：一般1,000円 高校生以下500円（当日券各500円増）  
問い合わせ：夢プロジェクト実行委員会  
（NPO法人アートステージ空知 深川事務所内）  
☎0164-22-3062

●第6回いっしょにね!文化祭

日 時：2019年10月5日（土） 12:00開演  
会 場：北翔大学北方圏学術情報センター  
入場料：500円 高校生以下無料  
問い合わせ：「いっしょにね!文化祭」実行委員会  
（NPO法人三角山内）  
☎011-676-3955

●岩内市民劇場創立20周年記念  
「にしん場」公演事業

日 時：2019年10月20日（日） 昼公演13:00開演  
夜公演18:30開演  
会 場：岩内地方文化センター  
入場料：前売1,000円 当日1,200円  
問い合わせ：岩内市民劇場（事務局長 坂井）  
☎0135-63-2628